

グラントデザイン検討の 重要な視点（案）



グランドデザイン検討の重要な視点（案）

ポテンシャル

- ・中心市街地に対する期待と居住ニーズは一定程度ある。
- ・リノベーションまちづくりをはじめとする草の根のまちづくりの動きが芽生え始めている。
- ・個店が連なるヒューマンスケールな街並みが広がっており、歩いて楽しいまちへと変革できる可能性がある。
- ・まちの中央に袋川という自然資源が位置しており、様々な場所から臨める久松山はまちのシンボルとなっている。
- ・鳥取駅周辺では大規模な再整備が計画され、鳥取城跡周辺では保存整備が進むこの機会を捉えることが重要である。
- ・まちを想い、行動するプレイヤーが今も存在する。

課題

- ・子育て世代をはじめとする若年層が暮らしたい、過ごしたいと思える環境を整える必要がある。
- ・居住ニーズや出店ニーズを受け止める不動産の流動化が求められている。
- ・老朽化が進行する建物の更新、遊休不動産の活用が求められる。
- ・回遊性向上のためには、分断されている界隈間の接続性を強化することが求められる。
- ・面的に広い市街地の回遊を促進する更なる交通手段の充実が望まれる。
- ・鳥取砂丘等へ訪れた観光客をまちなかに誘引することが望まれる。
- ・パブリックスペースの更なる有効活用が望まれる。
- ・緑被率が低く、身近なみどりの環境の充実が望まれる。
- ・点在する文化資源の更なる活用が求められる。
- ・中心市街地で生まれる賑わいを、中山間地域や市域全体、圏域全体に波及させていくことが望まれる。
- ・継続的なまちづくりや中間支援の担い手となる人材・団体の育成が望まれる。
- ・健康づくりにつながる・誰もが暮らしやすい・安心して暮らし続けることができるまちづくりが求められている。

グランドデザイン検討の重要な視点

<都市構造>

- ・現中心市街地活性化基本計画に示されている「二核二軸」の都市構造を実態及びまちづくりの方向性にあわせてどのように見直していくか。
- ・リーディングエリアの設定をどのように考えていくべきか。

<居住・生活>

- ・これからの未来を担う若い世代が暮らし／過ごす場所として選ばれるためには何を行っていくべきか。その受け皿となる住まいをいかに用意するか。

<都市の更新>

- ・防火建築帯等、老朽化が進行する建築物に対して、更新／保存活用等の選択肢を示すとともに、特徴的な街並みの維持に向けた手を打つことができるか。

<民間投資の誘導>

- ・まちなかでの起業・出店につながる実効性のある政策をいかに実施するか。

<移動・回遊・観光>

- ・車社会であることは受け止めつつも、いかに歩いて回れるまちなかを形成し、滞在時間を増加することができるか。
- ・中心市街地内の移動手段の多様化を図るためには何ができるか。
- ・まちなかへの観光誘客にはどのような仕掛けが必要か。

<みどり・景観>

- ・久松山等の遠景のみどりを守りつつ、人に近いみどりをいかに充実させていくか。
- ・まちなかを流れる袋川や山白川を地域資源として評価し、いかにまちづくりに活かしていくか。

<施策連携>

- ・鳥取駅周辺整備や鳥取城跡保存整備と連動した政策を展開し、その効果をいかにまちなかへと波及させることができるか。
- ・中心市街地の活性化を中山間地域を含む全市域や圏域にどう波及させるか。
- ・文化歴史資源の保存の動きをいかにまちづくりの動きと連動させていくか。

<担い手育成・エリアマネジメント>

- ・リノベーションまちづくり等、民間主導のまちづくりの動きをいかに支援し、エリアの持続的に価値を高めていく取組へとつなげていくことができるか。

<安心・共生>

- ・誰一人取り残さないまちづくりの視点を持つことができるか。